

入室時間が決まらずに手術を受ける患者の待ちに対する検討

～ 待ち時間中の気持ちのアンケート調査より～

手術部

○杉内 由紀子 福島 正子 丸茂 由美(評議)

鶴井 知子 西村 美子

I はじめに

当院手術部では、大半の手術において入室時間が決まっているが、一部の手術ではやむを得ず入室時間を決めずに先の手術が終了して入室するというタイムフォロー方式（以下TFと略す）を実施している。手術を受ける患者は、手術を受け入れるまでには、様々な不安と心の葛藤がある。黒丸ら¹⁾は、『不安は決して解消できない、勇気をもって引き受けて行く以外にない』と言っている。医療従事者は、患者自身が不安や心の葛藤をしっかり引き受けて行けるよう支え援助を行う必要がある。私達は、TF患者にとって入室時間が決定していない事は心理的負担を助長させるのではないか、また待ち時間の気持ちに対し患者支援の必要性があるのではないかと考えた。そこで今回、待ち時間中の気持ちを明らかにする事を目的とし本研究に取り組んだ。その結果、いくつかの知見を得ることができたので報告する。

II 研究方法

1. 対象：TFで手術を受ける患者のうちアンケートに協力が得られた52人
2. 期間：平成11年10月～平成12年5月
3. 方法：不安に関する独自のアンケートを作成し、無記名で自己記入式質問紙を用いて実施した。（資料1）アンケートは手術前日～2日前に術前訪問を行った際に研究担当者が手渡した。回収は術後1週間以内を目安に患者の状態を把握したうえで研究担当者が行った。

III 結果および考察

1. 対象者の概要

調査への協力が得られた52人中、有効回答数は49人で有効回答率は94.2%であった。

科の内訳は、第一外科2人・第二外科5人・耳鼻咽喉科7人・整形外科10人・泌尿器科3人・婦人科5人・眼科11人・皮膚科4人・歯科口腔外科2人であった。

対象者の平均年齢は47.1±22.8歳、性別では男性21人(43%)、女性28人(57%)であった。

2. TFの理解度・満足度について

(1) TF患者は、TFの説明を36人(73%)が医師より、9人(18%)が看護婦より受けていた。

TFの説明について『よく理解できた』と答えた患者は35人(71%)・『まあまあ理解できた』と答えた患者は13人(27%)、計48人(98%)ではほぼ全員がTFについて理解できおり、『理解できなかった』と答えた患者は1人いた。(図1) TFの満足度について質問した結果、『満足している』と答えた患者は21人(43%)・『まあまあ満足している』と答えた患者は14人(29%)で、満足傾向にある患者は計35人(72%)であったが、しかし『まあまあ

不満』と答えた患者が8人(16%)・『不満』と答えた患者が5人(10%)で不満傾向にある患者は計13人(26%)であった。(図2)そこで、『理解できた』『まあまあ理解できた』『理解できなかった』と答えた患者が、満足傾向にあるか不満傾向にあるか χ^2 検定した結果、 $p < 0.05$ と有意差が認められた。この事より、TFについて『理解できた』と答えた患者は満足傾向にあり、『まあまあ理解できた』と答えた患者は不満傾向にあることがわかった。患者がTFについてどのように理解しているか把握することはどの程度満足しているかを知る指標となるため、看護婦はTF患者のTFについての理解度の把握が求められる。

(2)TFについて不満傾向にある13人を対象に不満である理由を質問した結果、『時間が決まっていた方が良い』が10人(77%)と最も多く、次いで『朝からの手術が良かった』が2人(15%)、『1日でも早く手術したいのでTFでも仕方がない』が1人(8%)という結果であった。この事より、TFについて不満傾向にある大半の患者は、時間が決まらずに待つ事に対して何らかの苦痛を感じていることがわかった。

3. 年齢別にみた満足度および苦痛の関係について

TFについて不満傾向にある患者の年齢をみると、肉体的にも精神的にも完成する準備期である青年期(30歳未満)までに集中していた。(図3)また私達は、待ち時間の気持ちを緊張感・ドキドキ感・不安感・じっとしているのが苦痛・落ち着かない感じの5項目に分け(以下、待ち時間の苦痛5項目と略す)、得点をつけて合計点で評価した。得点については苦痛を“とても強く感じた”4点・“強く感じた”3点・“少しは感じた”2点・“あまり感じなかった”1点・“全く感じなかった”0点とした。その結果、30歳未満と30歳以上では待ち時間の苦痛5項目の合計点においてMann-Whitney検定で有意水準1%未満で有意差が認められた。さらに、30歳未満は待ち時間を『長い』と感じている。 $(\chi^2$ 検定 $p < 0.01)$ (図4)この事より、30歳未満は手術という大きな問題に直面すると心が不安定になりやすいと考えられ、特に待ち時間の気持ちへの配慮と支えが必要となる事が明らかになった。

4. TF患者がTFについて受けた説明について

当手術部では、TF患者は12時~13時に入室できるという予想をしている。しかし、朝からの手術の終了時間が前後することで入室時間にズレがでてくる。患者がTFについてどのように説明を受けたか質問したところ4つのタイプがあり、それぞれを①~④に分けると、①. だいたい何時頃と具体的に時間を告げられている、②. 昼頃、③. 昼過ぎ、④. 時間未定で前の手術により前後すると告げられている事がわかった。

5. TFの説明のタイプと松田²⁾の待ちの心理的時間の長さを規定する要因を比較して(表1)

松田は待ちの心理的時間の長さを規定する要因として、i) 物理的時間、ii) 時間経過を意識する程度、iii) 経過時間の分節度、iv) 心理的テンポがあると述べている。患者がTFについて受けた①~④の説明と松田の述べている4つの要因とを比較検討すると、

i) 物理的時間について

①~④において入室時間が13時を越えた場合、待ち時間の苦痛5項目において苦痛の有無にかかわらず、④の2人を除いて皆、待ち時間を『長い』と答えている。入室時間が遅くなれば、待ち時間を長く感じるのは当然である。入室時間が13時を越える患者には病棟での患者への心理的援助が必要となり、一層病棟と手術室との連携が必要となってくる。

ii) 時間経過を意識する程度について

①の午前中に入室しても『長かった』と答えた1人(5歳 男 10:10入室)と②の午前中に入室して『長かった』と答えた1人、12時~13時に入室して『早かった』と答えたうちの1人と『長かった』と答えたうちの3人は、不安・落ち着かない・ドキドキする・じっとしているのが苦痛の4項目において『とても強く感じた』『強く感じた』と答えている。また、①~④の13時までに入室した患者で『早かった』と答えた人は、②の12時~13時に入室した1人を除くと待ち時間の苦痛5項目において『とても強く感じた』『強く感じた』と答えた患者はいなかった。この事より、不安・緊張など苦痛の強い患者は待ち時間を長く感じる傾向にあり特に待ち時間の患者の気持ちを支える必要がある。手術室看護婦にとって待ち時間中の患者の状態について情報を得て把握する事は、術中看護を行う上でも必要である。また待つ事のできない小児は、特に家族を含めた支援が必要であると考えられる。

iii) 経過時間の分節度について

①では12時までに入室した場合、告げられた時間より早くても遅くても1人を除いて皆『早かった』と答えている。12時~13時に入室した場合は、告げられた時間通りであった2人は『早かった』と答え、告げられた時間より遅れた2人は待ち時間の苦痛を感じなくても『長かった』と答えている。13時以降に入室した場合は、告げられた時間より早くても遅くても『長かった』と答えている。このように予定時間を告げられている場合、物理的時間も考慮して、告げられた時間を境に『早かった』『長かった』と感じる傾向にあると考えられる。

②では13時までに入室した場合は、『長かった』と答えた4人と12時~13時に入室して『早かった』と答えたうちの1人は、待ち時間の苦痛5項目において『とても強く感じた』『強く感じた』と答えていた。③では13時までに入室して強い苦痛を感じている人はいなかった。②・③のようにTFについて漠然とした説明を受けていると、患者個々が昼頃・昼過ぎをどのように受け止めたかによって、受け止めた時間より早ければ『早い』と感じ、遅ければ『長い』と感じるのではないかと考える。しかし、③の13時までに入室した患者が少ないので、②・③の患者個々がどのように受け止めたか、この度は結果がでなかった。

④では12時~13時に入室して『長かった』と答えた患者1人は17歳の学生で、待ち時間中の強い苦痛は感じていなかった。13時以降に入室しても2人は『早い』と感じていた。また13時以降に入室した6人の患者は皆待ち時間の苦痛5項目において『とても強く感じた』『強く感じた』と答えた患者はいなかった。13時以降の①~④の平均苦痛得点を比較しても一番低い結果となった。この事より、入室時間未定と告げられた場合は時間が分節されないで①~③に比べ待ち時間中の苦痛が小さかったと考えられる。

iv) 心理的テンポについて

今回の研究では明らかにすることができなかった。

以上の事より、TF患者の待ち時間中の心理的時間を左右させる要因として、入室するまでの時間・待ち時間中の患者の苦痛の度合い・TFについて受けた説明・年齢が関係していると考えられる。医療従事者は患者の待ち時間中の心理に目を向け、病棟・手術部看護婦が連携をとって患者を支援して行く必要がある。

IV まとめ

1. TFについて『理解できた』と答えた患者は満足傾向にあり、『まあまあ理解できた』と答えた患者は不満傾向にある。
2. 30歳未満の青年期までの患者はTFについて不満傾向にある。
3. 患者がTFについて受けた説明は、『だいたい何時頃』『昼頃』『昼過ぎ』『前の手術が終わってから時間未定』の4つのタイプがあった。
4. TF患者の待ち時間中の気持ちは、松田の待ちの心理的時間の長さを規定する4つの要因とほぼ同じ結果になった。

V おわりに

今回の研究では、TF患者の待ち時間中の心理的負担を助長させる要因がいくつか得られた。今後はこの結果をもとに病棟と手術部間の一層の連携を行い、患者支援に努めて行きたい。

謝辞

本研究で統計について御指導くださった医療短大の原田先生に深謝いたします。

引用・参考文献

- 1) 黒丸正四郎・大段智亮：患者の心理，創元医学新書(A-70)，p84～99, 1982
- 2) 松田文子：“待つ” “待たされる” の心理，病院55巻8号，p726～730, 1996
- 3) 長谷川真美ら：手術患者のもつ不安の経時的変化について，第20回成人看護 I，p192～195, 1989
- 4) 野村美香ら：手術を待つ家族の時間感覚と影響因子について，第24回成人看護 I，p30～33, 1993

資料1 TFアンケート

タイムフォローで手術を受けられる方へ

患者様方には多くの検査や治療を受けられて、近日手術という大切な日を迎えられる事と思います。

私共手術室看護婦は、手術を受けられる方のお気持ちを受けとめ不安を軽減するとともに、手術を安全かつスムーズに受けて頂けるよう日々努力をしております。この度手術をタイムフォローでうけられる方が、手術室入室時間に対してどのようなお気持ちやご意見をもっていられるかを知り、より一層良い看護に努めていきたいと考えております。

大変お手数ではございますがアンケートにご協力いただけますよう宜しくお願いいたします。

※タイムフォロー手術とは、朝から手術室へ入室するのではなく前の手術が終わった後に手術室へ入室していただく手術の事をいいます。手術室入室時間については、手術室看護婦が病棟へ連絡いたします。

以下の項目について、当てはまるものに○印をつけ、空欄には御意見を記入して下さい。

- I 手術がタイムフォロー（時間が決まっていない）である事についてお尋ねします
- ①いつ聞かれましたか（例：前日等）
- ②誰から聞かれましたか 当てはまるものに○印をつけて下さい
 医師 麻酔科医 病棟看護婦 手術室看護婦
 その他
- ③どのように聞かれましたか（例：昼頃になる等）
- ④手術がタイムフォローである事について当てはまるものに○印をつけて下さい
 充分説明を受けたのでよく理解できた
 まあまあ理解できた
 説明が足りないのであまり理解できなかった
 全く理解できなかった
- ⑤手術がタイムフォローである事に対して当てはまるものに、○印をつけて下さい
 満足である
 まあまあ満足である
 まあまあ不満である
 不満である
- ⑥⑤で、タイムフォローの手術である事に対して『まあまあ不満である』『不満である』と答えられた方についてお尋ねします。あてはまるものに○印をつけて下さい
 朝、一番の手術が良かった
 朝からの手術でなくても良いが、時間が決まっている方が良かった
 一日でも早く手術を受けたいのでタイムフォローでも仕方ない
 その他

- II 手術室入室までの、待ち時間についてお尋ねします。当てはまるものに○印をつけて下さい

- ①誰と過ごされましたか
 家族 ひとり 友人または知人 他患者
- ②どこで過ごされましたか
 病室にいた 病棟にいた 病棟外にもでた
- ③どのように過ごされましたか（例：TVを見ていた等）
- ④時間が特に気になりました（イラだちや不安が強くなったと感じた）のはいつ頃からですか 時頃から
- ⑤待ち時間についてどのように感じられましたか あてはまるものに○印をつけて下さい
 とても長く感じた
 長く感じた
 少しは長く感じた
 少しは早く感じた
 早く感じた
 とても早く感じた
- ⑥待ち時間のお気持ちについてお尋ねします。あてはまるものを□内より選んで に記号を入れて下さい
 緊張感について
 ドキドキ感について
 不安感について
 落ち着かない気持ちについて
 じっとしている事が苦痛である気持ちについて

- ア：とても強く感じた
 イ：強く感じた
 ウ：少しは感じた
 エ：あまり感じなかった
 オ：全く感じなかった

- ⑦手術室入室時間をいつ頃知らされましたか。あてはまるものに○印をして下さい
 入室する 1時間以上前 約1時間前 約30分前
 直前 その他 前
- ⑧⑦において、手術室入室時間を知らされた時期は適当でしたか。あてはまるものに○印をつけて下さい
 早すぎた やや早かった 適当だった やや遅かった
 遅すぎた

その他、手術室看護婦に御要望などがありましたら、何でもお書き下さい
 ご協力ありがとうございました

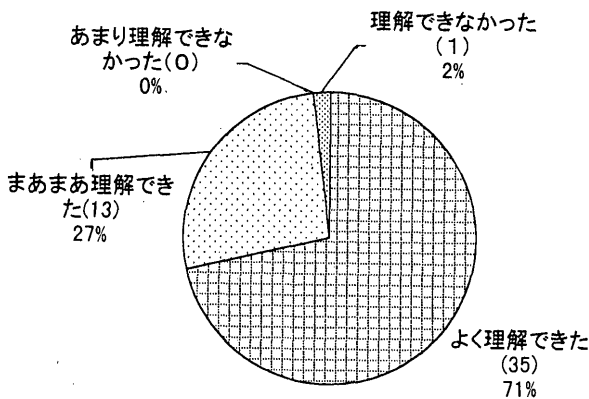


図1 TF理解度

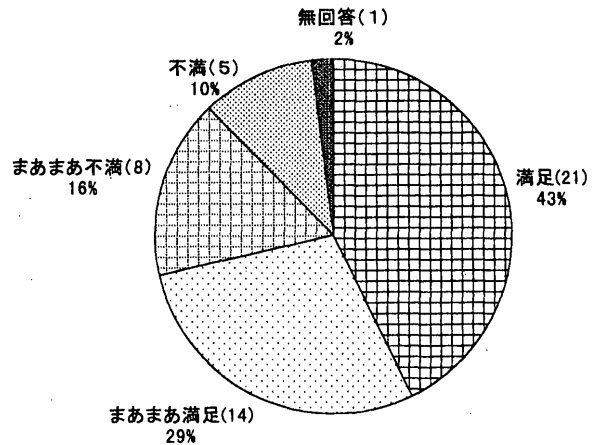


図2 TF満足度

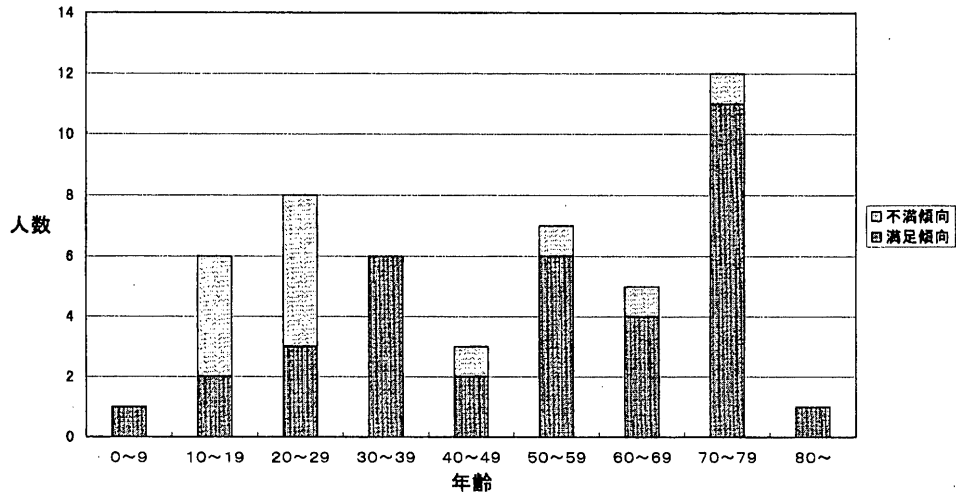


図3 TF満足度と年齢の関係

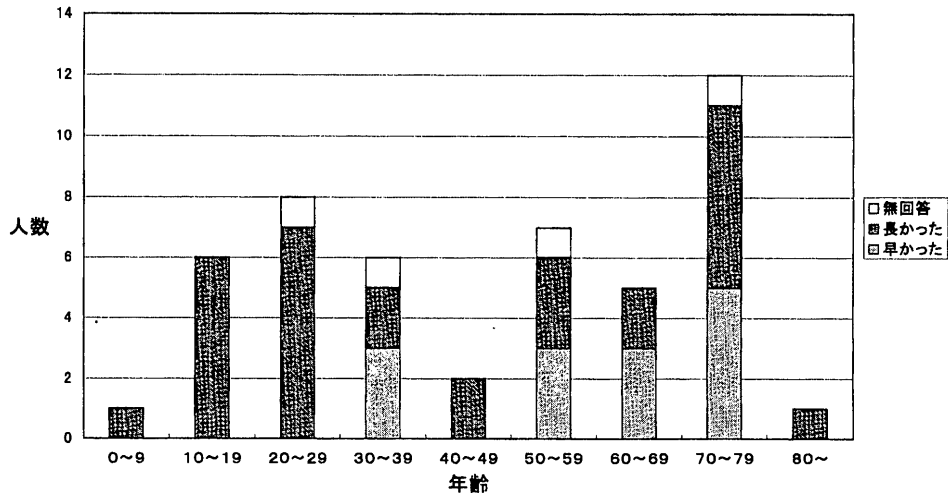


図4 待ち時間の感じ方と年齢の関係

表1 TFの説明タイプ別待ち時間の感じ方

TF説明 感 じ 方	時間を告げられた患者16人(①)			昼頃と告げられた患者12人(②)		
	12時までに入室	12時~13時に入室	13時以降入室	12時までに入室	12時~13時に入室	13時以降入室
早く感じた	4人	2人	0人	1人	2人	0人
長く感じた	1人	2人	7人	1人	3人	5人
平均点	7.4点	3.0点	9.5点	5.0点	5.8点	6.6点

TF説明 感 じ 方	昼過ぎと告げられた患者6人(③)			時間未定、いつになるかわからないと告げられた患者8人(④)		
	12時までに入室	12時~13時に入室	13時以降入室	12時までに入室	12時~13時に入室	13時以降入室
早く感じた	0人	1人	0人	1人	0人	2人
長く感じた	0人	0人	5人	0人	1人	4人
平均点	0点	2.0点	10.8点	0点	6.0点	4.8点